

## 「川の学校」水生昆虫をモチーフとした小学生への環境教育プログラムについて River School: The Report of Environmental Education Program on Elementary School using Aquatic Insects

大原 尚之<sup>1\*</sup>, 武田尚太<sup>1</sup>, 根岸淳二郎<sup>2</sup>, 佐藤祐介<sup>2</sup>, 山中 康裕<sup>2</sup>

Naoyuki Ohara<sup>1\*</sup>, Shouta Takeda<sup>1</sup>, Junjiro Negishi<sup>2</sup>, Yusuke Sato<sup>2</sup>, Yasuhiro Yamanaka<sup>2</sup>

<sup>1</sup>北海道大学大学院環境科学院, <sup>2</sup>北海道大学大学院地球環境科学研究院

<sup>1</sup>Hokkaido University Graduate School of Environmental Science, <sup>2</sup>Faculty of Environmental Earth Science

山間地域において川は身近な自然の代表的なものである。また、カゲロウやトビケラなどの水生昆虫は、その種類や数の特徴を通じて、周辺地域の自然環境の現状を理解する際に有用な情報を提供する。ここでは、北海道占冠村トマム地区・星野リゾート・トマムに流れる川において実行した、水生昆虫をモチーフに作成した「川の学校」プログラムについて報告する。本プログラムは、小学生が川に生息する生物に対しての視野を広げて、さらに地域の自然環境に対する理解を深めることを目的とした。特に科学的な視点での平易な説明を多用し、小学生に水生昆虫と川の密接な関係を伝える実践に取り組んだ。プログラムの具体的な内容は大きく二つに分かれる。生徒が水生昆虫の採集とアクリル標本の作成を行う第1部、第1部の振り返りを含めてクイズを行い、生徒に水生昆虫のアクリル標本を手渡す第2部を行った。

### 第1部

2012年7月、占冠村立占冠村中央小学校とトマム小学校の生徒3年生?6年生42名を星野リゾート・トマムに迎え、水生昆虫の採集・観察とアクリル標本作成を実施した。生徒が川で水生昆虫を採集し観察したことを記憶に留められるように、記憶媒体としてアクリル標本を作る作業を取り込んだ。標本は大学院生の指導のもと、生徒が水生昆虫をアクリルに流し装飾を加えながら作成した。アクリル標本は乾燥に時間がかかるため、実行者側が一旦預かり、後日小学生に渡した。

### 第2部

三ヶ月後の10月に両小学校を訪れ、完成したアクリル標本を小学生に渡す機会を得た。第一部から長時間が経過している事もあり、第1部の振り返りの役割を持たせて水生昆虫のクイズを設けた。クイズは大学院生2人がそれぞれ博士役とファシリテーター役を務め、途中カワゲラの顕微鏡のライブ映像を挟みながら、生徒の水生昆虫への理解と関心を深めた。アクリル標本を渡す際、小学生向けに水生昆虫の見分け方を載せたカードを配布した。

後日、小学校側から感想を受け取ったところ、生徒から水生昆虫の魅力・アクリル標本に感動する声や、占冠の川を大切にしたい気持ちが生まれたという声を得られ、プログラムの目的は概ね達成され、占冠の魅力である自然の豊かさが子供達に伝わったと感じた。今後も、プログラムの制作上で生じた問題点を修正しながら、占冠村の小学生に環境教育を提供することが望まれる。

この取り組みを行うにあたり、ご協力をいただいた占冠村役場の皆さん、(株)星野リゾート・トマムの方々、そして北大関係者に感謝申し上げます。

キーワード: 水生昆虫, 環境教育

Keywords: aquatic insects, environmental education

